



# 栃三小だより

令和元年5月21日

# 前進 5月号

発行者 五味壽明



本校元校長大塚幸一先生

から贈られた色紙

## 令和のこいのぼり

5月1日、新たな「令和」の時代が始まりました。学校では、新たな時代の幕開けに合わせて、連休明けの一週間、南校舎と中校舎の間に綱を張って大空に鯉のぼりをあげました。

三小では昨年も鯉のぼりをあげていましたが、この鯉のぼりは昨年までのものではなく、“真鯉・緋鯉”に、青い小さな鯉が加わった新しい鯉のぼりセットです。これは4ヶ月ほど前に、箱森町にお住まいの高橋様からご寄贈いただきました新しい鯉のぼりです。この5月、ちょうど新しい時代のスタートを祝って今年から掲げることになりましたので、「令和のこいのぼり」と名付けさせていただきました。

“超大型連休”明けで“1学期再スタート”となった5月ですが、この一週間、子ども達は昇降口前の鯉のぼりの下を通して登校し、元気に一日の学校生活をスタートさせていました。地域の皆様の温かいご支援に感謝しながら、子ども達の健やかな成長を願う一週間でした。

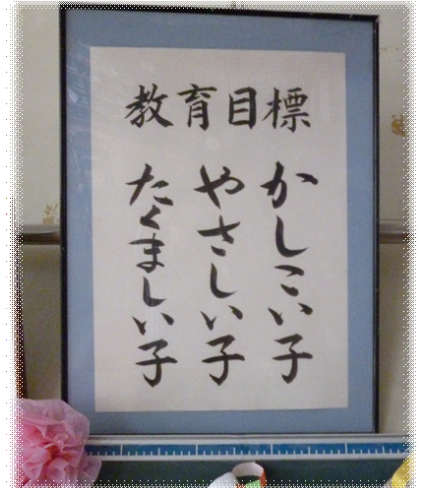
## すこやかな心身の育成

「子ども達の健やかな心身の育成」というのは、栃三小の学校経営目標です。この“経営目標”と共に学校教育活動の根幹をなすのが教育目標で、栃三小では、かしこい子(学力向上のために)・やさしい子(豊かな心を育てるために)・たくましい子(体力・気力の向上のために)という児童の3つの姿で示してあります。この教育目標の3本柱(綱掛けの部分)は戦後早い段階で作られ、それからずっと変わらない、数十年の歴史をもつものです。

## 時代が変わる・教育も変わる

変わらないのが教育目標だとすると、反対に時代と共に変わっていくのが教育内容と教育方法です。

教室の正面に掲げられた教育目標の額



今年は特別な一年、「時代の変わり目」の年です。令和となったからというわけではありませんが、国が10年に一度改訂している学習指導要領が、来年“令和2年度”から新しいものになります。今度の学習指導要領の中には、「特別の教科道徳」「外国語科」「プログラミング学習」など、たくさんの新しい教科や教育内容が入っています。学校も変化すべき年を迎えることになります。

## ダーウィンの名言から

### ダーウィンの言葉

最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。  
唯一生き残ることができるのは、変化できる者である。

そこで思い浮かべるのは、ダーウィンの言葉です。世界を回って各地の生物を研究し「進化論」を著したダーウィンは、“強い者・賢い者が生き残るのではなく、変化できる者が生き残る”という名言を残しています。

## 変化できる学校・変化できる子ども達

現行の学習指導要領、新しい学習指導要領、両方に共通のキーワードとなっているのが「生きる力」です。

ダーウィンの言葉によれば、生育環境の劇的な変化にしっかりと適応し、生き残った生物たちのように、時代の変化に適応しながら自身に変化していける者こそが、「最も生きる力の強い者」ということになります。時代の変わり目を乗り切って新たな時代を生き抜くために必要なのは“変化できる者”であることです。

新しい『令和の教育』のスタートとなる今年。学校をとりまく環境も時代の変化と共に変わってきます。教育には、普遍的で変わらない部分もありますが、時代の変化に応じて変化していく部分があり、適応力・順応性といったものが大切になってきます。

栃三小も、教育目標である「かしこい子、やさしい子、たくましい子」を目指しつつ、適応力と順応性を高め、「変化できる学校」「変化できる子ども達」となって、新たな時代に力強く前進していきたいと思えます。

### 「安全な学校」をめざして

5月8日(水) 総合避難訓練

5月9日、栃三小で「総合避難訓練」が行われました。授業中に発生した地震により、給食室が火災となって、全員避難するという訓練です。子ども達は各担任と共に黙って素早く行動し、校庭の避難場所に整列しました。



#### 避難場所に整列して人員確認

校庭の避難場所に避難するまでが、総合避難訓練の第一部です。続いて第二部は栃木消防署との連携による、「はしご車による救出訓練」と「消火器を使った初期消火訓練」です。



#### はしご車での救出訓練

1・3・5年生、2・4・6年生に分かれ、交替で2つの訓練を行いました。

#### ←消防署の方々の指導で消火器を使う児童

火災を最初に発見した人が、即、消火器を使ってくれたなら、それが一番です。子ども達も火災を防ぐ学校体制に大きく貢献しています。

栃木市では全ての小中学校が「防災教育」の研究指定を受けています。防災教育では「どんなに注意しても完璧な防災体制をつくることはできない」ということを前提にしながら、完璧に近い、より安全な体制をつくっていく努力が重要です。

報道で度々「想定外」という言葉が出てくるのですが、この「想定外」をどんどん小さくすることが、完璧に近づくことになるものと思います。学校では、機会あるごとに危機管理マニュアルを見直し、様々な想定に基づいた訓練をして、より安全な学校体制をつくっていききたいと思えます。

### お知らせ

田村ひと美先生結婚

学校栄養士の田村ひと美先生が5月5日入籍しました。姓が「宇留野(うるの)」と変わって、この5月から“宇留野ひと美先生”となりました。引き続きよろしくお願い致します。